課題探求とアイデンティティ探求
—新しいプロセスモデルの提案—

高村 和代
(名古屋大学大学院教育学研究科)

問題と目的
近年、アイデンティティについて、プロセスの視点を取り入れた研究の重要性が強調されてきている。しかし、そのようなプロセスに関する研究の中で、課題を探求していく過程とアイデンティティを探求していく過程をそれぞれ分けて記述し、それぞれの相互関連について示したモデルはまだ見られない。従って本研究では、進路選択課題を探求している大学4年生に対して行った継続的面接から、課題探求とアイデンティティ探求のプロセスを示したモデルを提案することを目的とする。

モデルの説明（Figure 1）

・課題探求のプロセス
まず、何を選ぶべきかという「選択肢についての検討」を行う。ある程度選択を絞ると、次にどのように行動していくかという「情報収集」を行い、今後の「計画」を立てること。続いてその計画に従って、決定に向けて選択肢に「傾倒」し、計画を「実施」していく。そして最終的な「決定」へと進む。しかし、課題探求に影響する「外からの刺激」によって、選択肢の変更を余儀なくされたり計画の立て直しを迫られ、プロセスが戻ることもある。

・アイデンティティ探求のプロセス
自分自身について「新たな発見」や「再発見」をした場合に、アイデンティティ探求が進める。まず、このような発見について、望ましいものであるか否か、好きな嫌いかなどの「評価」を行い、続いてその評価を自分自身の中に新たな「取り入れ」をする。例えば、否定的な評価をした場合、そのような自分を変えていこうとしたり、または受容したりするのである。そして最終的に、「自己の再構成」が行われていく。さらに、そのようにして再構成された自己は、「現在のアイデンティティ」として、新たに機能するようになるのである。

・課題探求とアイデンティティ探求の相互関連
「選択肢についての検討」は、自分にはどのような選択肢が適しているのかという問いかけを行うため、「現在のアイデンティティ」に基づいて行われる。そして、課題探求している中で接する重要な他者やその他の「外からの刺激」によって、自分自身についての「新たな発見・再発見」をすることがある。そこから、アイデンティティ探求が始まるのである。そこででの発見は自分自身の能力に関連することもある。そして、その能力と照合した結果、選択の変更を余儀なくされたり計画の立て直しを求られ、プロセスが戻ることもある。また、アイデンティティ探求が行われた場合、「自己の再構成」を行った上で「決定していく」と、その決定が受け入れられやすいものとなるのではないだろうか。

Figure 1 課題探求とアイデンティティ探求のプロセスモデル

—118—